令和６年度第４回国分寺市環境審議会議事要約（案）

日　　時　：　令和７年１月 28 日（火）　午後２時～４時５分
会　　場　：　市役所会議室 201

○会議次第

１．開会

２．議事

（１）第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討について

①市民説明会・パブリック・コメントの実施状況（速報）

②第三次国分寺市環境基本計画実施計画（素案）の検討状況

３．その他

（１）今後の予定

４．閉会

出席委員　：　中西由美子会長、大野政智副会長、大友美輪委員、益子美賀委員、和田淳委員、竹内大悟委員、野澤淳史委員、六車貴美子委員、荒井雄一委員、古後康之委員、伊藤晧子委員、田中貴浩委員　計 12 人

欠席委員　：　なし

傍 聴 者：　なし

事 務 局　：　まちづくり部まちづくり計画課５人（部長、課長、係長、担当２人）
委託事業者２人

配布資料

資料１…　第三次国分寺市環境基本計画（案）に関する市民説明会・パブリック・コメントの実施状況（速報）

資料２…　第三次国分寺市環境基本計画実施計画（素案）

参考資料１…第三次国分寺市環境基本計画（国分寺市生物多様性地域戦略含む）（案）

参考資料２…第３回環境審議会後の追加意見（一覧）

参考資料３…策定スケジュール（予定）

令和６年度 第３回国分寺市環境審議会議事要約

１．開会

●まちづくり計画課長あいさつ

まちづくり計画課長より会の成立を報告した。

●新規委員への委嘱状交付及び紹介

まちづくり計画課長よりあいさつ及び古後康之委員の紹介を行った。

２．議事

●配布資料の確認

事務局より配布資料の確認を行った。

●第三次国分寺市環境基本計画及び実施計画の検討状況について

（事務局より資料１を説明）

中西会長：パブリック・コメントに関する対応方針については、今後庁内での検討を進め、次回の審議会にて提示する予定とのことである。本日の審議会で出た意見も踏まえながら検討を進めることになるため、皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。資料１に関しては、全体的に見て野川に関する意見が多かった印象を受ける。また、「新しい指標を加えるべき」、「戦略０という表記は分かりにくい」、「グリーンインフラについての説明をより充実させるべき」といった意見も挙がっている。まずは、野川に関する意見についてご意見を伺いたい。

竹内委員：全体的に、野川に関する記述が多いと感じる。また、意見者数は15名とのことだが、同系統の意見が多く見受けられるため、同じ人や団体からの意見が多いのではないかと推測される。実際のところはどうか。

事 務 局 ：意見者の所属団体等は不明だが、市内には、野川の早期整備を求める活動をされている方々も多い。

竹内委員：以前、市の成り立ちを踏まえると、国分寺崖線だけではなく、市北部の雑木林も重要だとの議論があった。バランスを考慮する必要があるとの話があったことを踏まえると、記載の仕方についても慎重に検討すべきである。同様の意見数が多いからといって野川のみに偏るべきではない。ただし、寄せられた意見については、「野川に関する意見」として一括りに対応するのではなく、各意見に対して誠実に対応した方が良いと思うので、今のまとめ方で、市としての考えを個別に示すことが望ましい。回答の傾向に、受け入れか現状維持なのか、受け入れられないのか、本人に返すかどうかは別として、この会で整理するのであれば、○×△のように整理した方が良いと思う。

事 務 局 ：現在、市の考えを整理中であり、計画への反映の可否について、次回提示できればと考えている。

竹内委員：そうであれば、私はよろしいかと思う。戦略０について、ここでは特別な意味を持たせているものの、「０」という表記だと「何もない」といった印象を与えかねず、全体の流れの中でも違和感があるように感じる。今まで提示されていた計画でも「０」という表記だったのか。

事 務 局 ： 最初から「０」と記載している。「戦略０」という表現には“原点”あるいは“出発点”という気持ちも込めている。確かに施策の記載順が１、２、３と続く中で最後に「０」となっている点については、表記の仕方を工夫する余地があるかもしれない。

中西会長： 今までも戦略０という表現は使われていたが、審議会では特に意見はなかったと思う。一方で、パブリック・コメントでは「戦略０」ではなく、「基盤戦略」、「基本戦略」、「総合戦略」、「包括戦略」といった代替案を意見書に書いてくださっているが、この辺りご意見を伺いたい。

六車委員： 「戦略０」の表記は市が積極的に推進しており、その際に委員の意見も統一されていた記憶がある。

中西会長： 戦略０の内容としては、環境教育や普及啓発が中心であり、情報発信・広報活動にあたる。市民が環境に関心を持ち、関わるきっかけとなる基本的なスタート地点という意味で「０」と表現しているが、「基盤戦略」という表記も適しているように思う。戦略０の表現を見直す可能性はあるのか。

事 務 局 ： 可能性はある。持ち帰って検討する。

伊藤委員： 戦略０の考え方自体は、全体のベースとなるものであることは理解できる。ただし、資料２の21頁にある「基本方針0-1」という表記には違和感があり、表記方法の問題ではないかと考える。もしこれが基盤であるのであれば、戦略１の前に順番を持ってくるという方法もある。戦略１～３がすべてこの戦略を基盤としているので、「戦略」というよりは「基礎」に近いのではないかとも思う。

和田委員： 記載場所の問題もある。例えば、参考資料１の71頁にあるような図案を用いて「基盤」として示すのであれば、現状の順番でも適切と考えられる。一方で、「スタート」として捉える場合は、戦略０から始めるべきではないか。

古後委員： 人間は最初に目に入るものから注視していく傾向があるため、基盤となる部分が最後に記載されていると、戻ったような感覚が生じ、分かりにくい。そのため、戦略０を最初に配置し、その後に戦略１～３で具体的な内容を示す方が分かりやすいのではないか。

中西会長： 戦略０の記載位置を変更するのか、それとも「基盤」という表現に改めるのかについて、庁内で検討いただきたい。野川について意見はあるか。

和田委員： 野川については、市民団体の方々が様々な活動をしており、小金井市内でも多くの方が関わっている。ただし、野川は東京都が管理する河川であり、整備事業の主体も東京都となる。したがって、市がどの程度関与できるのかが課題となる。野川の氾濫の危険性について、氾濫した場合に水防活動を行うのは市になるが、氾濫しないよう整備するのは東京都となる。そうした点を踏まえると、現時点で環境基本計画内に記載が少ないのはやむを得ないと考える。

中西会長： パブリック・コメントの意見の趣旨は、単に治水に関する要望ではなく、東京都への働きかけを継続し、機運を醸成することで現状を打開したいというものである。そのため、この趣旨をどこかに記載してほしいという意見と捉えられる。私自身は、すべての意見を確認した上で、全体として野川に関する意見が多くを占めていることを感じた。しかし、第二次環境基本計画からの流れを考えると、このままでは野川に関する記述が途切れてしまう印象があるため、どこかで少し触れておく必要があると考える。

伊藤委員： 今回のパブリック・コメントの意見では、野川に関するものが非常に多かったが、認知度

は低い。この計画が環境基本計画であることを踏まえると、資料１の項番17、18にもあるように、「野川はこんな川だ」ということをコラムとして紹介すれば、認知度の向上につながるのではないかと感じた。

中西会長： 特に、意見の中には資料１の項番22、24にあるように、「野川源流スクール」の活動や、東京都への働きかけ、署名運動の実施といった内容が記載されている。これらをコラムに載せるのも一案かと思った。

事 務 局 ： 機運醸成のための活動については、コラムで紹介したいと考えている。野川流域河川整備計画があることは記載できると思うが、都議会への陳情を市の計画に記載している他自治体の事例は見たことがないのでどのように反映するかは検討が必要かと思う。

中西会長： 周知という意味で、現状と課題の部分でもう少し詳しく知ってもらうということはあってもいいと思う。

竹内委員： 野川に関する様々な主張を、現在の基本戦略に分類する必要があると考える。基本的に、防災、生物多様性、戦略０の興味関心の話が混ざっているため、戦略２、３、０に落とし込める部分は反映すればよい。それ以外の活動に関する話は、コラムで周知するのが適切かと思う。特に防災面については、雨量によってはまだ整備が追いついていない現状がある。そのため、基本計画にどこまで盛り込むのか、生物多様性やゼロカーボンの観点も含め、防災の方向性をどのように示すかが課題となる。グリーンインフラの話も一部含まれているが、十分な議論がされていないため、中身が不十分に思われる。時間が限られる中で、防災の扱いについての工夫が必要かと思う。

中西会長： 野川をどの施策に位置付けるかを考えた場合、まちづくりの視点が適切ではないか。基本計画案の参考資料１の89頁にある施策２－３－２では、川に関する記載が一部あるが、野川の整備を進めるという文言を追加できるとよいと考える。近年、”かわまちづくり”の考え方もあるため、この施策に含めるのが適当ではないかと感じた。また、生物多様性の観点から施策２－２－２に盛り込む可能性も考えられるが、完全には当てはまらない印象がある。

竹内委員： その場合、生物多様性の視点に偏りすぎる懸念がある。意見の中には「雨量50㎜以上に対応できていない」といった防災面に関する訴えもあった。

中西会長： 参考資料１の61頁にある前計画の総括評価と取組の方向性を受けて、施策に反映してほしいという主張もあった。そのため、野川に関する記載をまったく触れないというのは難しいのではないかと考える。

大野委員： 参考資料１の33頁について、野川の課題や今後の対応策について、もう少し具体的に記載してほしいという意見があるのではないか。ただし、最終的には東京都が対応すべき事項であるため、市が市民とともにどのように関わっていくかについても、もう少し記載すると良いかもしれない。具体的な施策については戦略２に含まれているが、施策全体として大きなテーマを扱っている中で、野川のみを詳細に記載するとバランスが悪くなる。砂川用水の親水化や新田開発の樹林地の保全など、他の課題もあるため、個別に挙げるのではなく、計画には、国分寺市としての大きな方向性を示し、実施計画にはしっかり記載することが重要ではないか。

和田委員： 参考資料１の62頁には、「野川整備計画の早期実施に向けて東京都に要望する」と記載されている。そのため、すでに書かれている内容以上に、さらに詳細な記載が必要かどうか疑

問に思う。国分寺市が主体的に進められることではない以上、東京都への要望を記載することが最善策であり、それ以上どのように対応するのかは慎重に検討すべきではないか。

中西会長： 国分寺市ができることは、機運醸成のためのバックアップを行うことだと思う。その点についてはすでに記載されているため、問題は「それをどこに記載するか」ということではないか。河川の改修について記載することは難しいため、バックアップのあり方をどのように表現するかが課題であると考える。

和田委員： 野川の活動をされている方から、まちづくりとして野川沿いの宅地の人達が自分たちで川に向けて緑を植えるようにしたらどうかという意見を聞いた。しかし、河川に豊かな自然や緑があるならば、河川に沿って各家がオープンな空間を作っていくという手法もあると思うが、今、コンクリート三面張りの状況であり、整備に先行して川沿いをオープンにしていくことは考えられない。

中西会長： 野川沿いに住んでいる方が川に向いていて改修しづらいということか。

和田委員： 野川整備のために、周辺のまちづくりを先行させるという意見があるが、河川整備そのものが進んでいない段階で、周辺の緑化などを進めることが整備促進につながるのか疑問に感じるということだ。

事 務 局 ： まちづくりという言葉の定義が広い中で、「河川の整備促進」とは、イベントなどを通じて人々の意識を変えていくことなのか、それとも地区計画などの規制誘導や市街地整備などの、いわゆる都市計画的な手法を用いるということなのか。行政担当者を含め、市民の皆さんも、河川整備の促進に寄与するまちづくりが具体的に何を指すのか、十分に共有できていないように感じる。

大友委員： 長年住んでいる地主の方から、昔、野川が氾濫したことがあると伺ったことがある。気候変動が深刻化する中で、今後、集中豪雨が発生する可能性を考えると、資料１の項番95にあるように、生物多様性だけでなく、防災面にも不安を感じている方が多いのではないか。また、東京都に対して、より強い意見を求める声があると感じた。

大野委員： 近年の豪雨で、下流の方は危険な状態になっているが、下水道が整備されてからは、国分寺市内では危険な状態になっていない。パブリック・コメントの意見は理解できるが、「野川を何とかしたい」という想いが先行し、それにこじつけているようにも感じる。実際の危険度がどの程度なのか分からないため、上流から鞍尾根橋まで同じように危険なのかも不明であり、東京都を動かすために「どこが特に危険なのか」という具体的な議論が十分にされていない。東京都の立場からすれば、予算を使うのであれば、より危険な場所から対策を進める必要がある。その観点から見ると、下流域の方がより危険性が高い。

田中委員： 参考資料１の33頁には、「国分寺市緑の基本計画2011において、野川が水の骨格軸に位置付けられている」と記載されている。その点をうまく活用すれば、記載内容がより充実するのではないかと考える。また、「生きものの生息環境や親水性に乏しい状況になっています」との記述があるが、それに対する具体的な対応策が示されていないことが気になった。三面張りの護岸について、今後整備を進める際にはこの点に配慮する、あるいは別の場所で生息環境を創出するなどの方針を記載できればよいのではないか。

和田委員： そもそも、野川自体に生物多様性を求めるべきなのか疑問に思う。33頁には「生きものの生息環境や親水性に乏しい」と記載があるが、それが現状である。それを拡大しようと考えたときに、国分寺市独自に整備ができない中でどのように展開していくのか先が見えな

い。

事 務 局 ： 緑の基本計画や第二次環境基本計画でも、東京都が自然に配慮した野川整備を行う、それを促進していくという姿勢で一貫している。その姿勢は後退しているわけではない。前計画と施策体系は異なるが、取組として継続している。しかし意見書にあるのは、「その姿勢を第三次環境基本計画でも主張してほしい」ということだと認識している。具体的な内容の記載については実施計画となるが、環境基本計画の中でどのように取り扱うかについては、検討したい。

中西会長： コンクリート三面張りであっても、魚などの水生生物が生息しており、生きものがいないというわけではない。しかし、多自然型にするに越したことはないと思う。記載場所について、「まちづくりに野川の整備を入れるのは少し違う」という意見をいただいている。

事 務 局 ： 多自然川づくりであっても、その整備は、道路等と同じく立ち退きなどを要する都市基盤整備事業の１つである。都市計画河川整備事業と、それに伴う周辺地域の都市計画的意味合いのまちづくりなのか、本市における「かわまちづくり」をどう認識すべきかは、すぐには答えが出ないと感じている。

中西会長： 戦略０にも記載されているように、様々な場面で野川を含めた水辺に、もう少し関心を持ち続けてほしいということだと思っている。おそらく、「野川」という文言が少ないことが問題なのかもしれない。文字が少ないことで、読み手の意識に入りにくいのではないか。そのため、戦略０にもあるとおり、様々な場面で野川を含めた水辺に関心を持ち続けられるよう、表現を工夫していただければと思う。

（10分休憩）

中西会長： 資料１について、新しい指標として、こうした項目を入れられないかという意見があった。例えば、項番30「緑被率」、項番48「プラスチックごみの排出量」、項番79「樹冠被覆率」、項番82「温暖化に伴う気温の変化に関する指標」などである。この新しい指標の提案について、意見を伺いたい。

和田委員： 「樹冠被覆率」は、現状又は目標数値を出せと言われても、市では多分対応できないと思う。本数でも良いのではないか。

中西会長： 代わりに本数でもよいと記載されている。おそらく街路樹の本数は指標化できると思う。

野澤委員： 他の自治体を見ても、樹木の本数で猛暑の指標を表現することが、どこまで一般的なのか疑問に思う。他自治体の状況も検討した上で決めないと、単に仕事を増やすだけになってしまうのではないか。他の指標でも十分表現できる部分であるため、率直に言えば、追加する必要性は低いと感じる。指標として設定することに、どこまで意味があるのかも重要な視点である。

中西会長： 指標の議論は大きなテーマになると思う。一つ一つ検討することになるが、委員の意見として「意味がある」、「入れるべき指標」と考えるものがあれば、発言をお願いしたい。

大友委員： 項番82の指標については、細かく測定しても、その日の気温によって影響を受けるため、数値の変動が大きくなる。気温が上がりにくい資材を使っている道路があれば、その整備実績でも良いと思う。指標とは異なるが、こうした取り組みを紹介するのも一案ではないか。

大野委員：温度については、地形などの影響で多様な環境があるため、数値を出すのは難しいと思う。一般に気温を測定する際は、外的要因に影響されない装置を用いるため、指標としては難しいと思う。とはいえ、一般的な環境の気温と、環境を変えた場合の気温を比較するコラムを掲載することには、一定の意義があるかもしれない。

事務局：気温に関しては、参考資料１の82頁、施策１－６－１で、遮熱性舗装や保水性舗装について取り上げている。まだ市内での実績はないが、毎年の実績報告として「検討したかどうか」も含めて報告していく。まだ技術が一般的に普及していない段階であるとも聞いている。

中西会長：実用化にはハードルがあるため、実績報告の中で公開していただけたらと思う。

事務局：横浜市などで公園の歩道部分での実績があるようなので、参考にしながら検討したい。

中西会長：指標について、これ以上意見がないようであれば、パブリック・コメントで確認したいことがあれば教えてほしい。なお、意見に対しては、今後市の対応を公表することになるかと思う。

古後委員：資料１の項番28「広域連携による再生可能エネルギー利用促進に向けた検討（地域間融通等）」は、市単独では実現性が低いので取組から削除すべきとの意見があるが、広域連携による最適化の利用促進に向けた検討や、地域間融通などは、市としても議論を深めてよいと考える。しかし、現状では国の整備が追いついておらず、事例もまだ少ない状況であるため、「将来的な計画を検討する」などのソフトな表現にしたらどうか。丁寧に回答すべきだと思う。

事務局：脱炭素については、現時点で、まだ技術が追いついていない部分もあるが、新たな知見や取組がどんどん出てきている分野なので、可能性を含め、研究は続けていきたいという趣旨である。誤解を招かないよう、丁寧に対応したい。

中西会長：グリーンインフラについては、もう少し説明が必要かと思う。その点について、丁寧な説明や補足をしていただけたらと思う。また、誤字脱字等についても、もう１回確認し、修正してほしい。

六車委員：参考資料１の80頁のシェアサイクルについて、杉並区では企業と連携し、各地に電動キックボードのステーションを設置している。市としても、導入に取り組めないか検討したか。

事務局：電動キックボードには利点もあるが、安全面の課題もあるため、今後の検討事項とした。

（事務局より資料２を説明）

中西会長：次に、資料２「実施計画」について意見を伺いたい。

和田委員：各基本方針について、令和７年度から令和11年度までの目標値が各年度ごとに設定されている。例えば、資料２の５頁、温室効果ガス排出量の削減割合では、14.8％や43.2％と値が細かく設定されている。目標は「50.0％」といったように、令和７年度と令和11年度のみの大まかな値にした方がよいと思った。各年度に数値を設定する必要があるのか疑問に思う。

事務局：各年度の目標値は、2030年度目標を６年間で均等割りした数値である。ただ、基本的には最終年度の目標が明確であればよいとは思う。しかし、年度ごとに進捗を点検することか

ら、管理のしやすさを踏まえ、目標値も年度ごとに設定している。

和田委員：小数点第１位以下は不要ではないか。

六車委員：均等割りで計算しているため、小数点まで入れてもよいと思う。

中西会長：実施計画は、実際に運用しながらトレンドを見極め、順次見直す方針となっている。

竹内委員：資料２の１頁のとおり、環境審議会の役割は「実施計画の見直し」であるが、審議会で議論された内容が、どの程度見直しに反映されるのか見通しを伺いたい。

事務局：現在、環境推進管理委員会において、実施計画について「なぜこれは達成できなかったのか」といった点を細かく点検・評価しており、次年度の取組の進め方に反映している。

竹内委員：今の話を踏まえると、「環境推進管理委員会が施策の点検・評価を担当し、環境審議会が計画の見直しを担当する」などの役割分担を明確にするのがよいと思う。

事務局：取組自体を改善すべきか、目標そのものを変更すべきかについては、環境推進管理委員会で検討する。しかし、ナラ枯れのような、計画策定時には想定しえなかった問題が発生した場合には、本来であれば計画そのものを見直すべきだという議論があった。したがって、そのようなケースの場合は、環境審議会でご審議いただいたうえで、計画を見直すという考え方になる。

中西会長：環境審議会は、計画の見直し・策定が主な役割となっている。

大野委員：資料２の７頁の施策１−３−１、16頁の施策２−２−３については、取組の内容がやや膨らませて記載されているように見える。今後、担当課と調整するのかもしれないが、現状では具体的な施策とは言い難い。現行計画の実施計画では、将来のイメージがもう少し具体的に記載されていたが、今回の実施計画案では、具体的に何をするのかが分かりにくいと感じた。

中西会長：大野委員の意見は、内容をより具体的にすべきという指摘だと理解した。もう少し詳細に記載することは考えられるか。

大野委員：砂川用水の親水化については、目標自体はあると思う。課としての目標は存在するのかもしれないが、計画には反映されていない。そのため、立場は、将来的に活動の場をどのようにしていきたいのか、市として示してほしいと考える。

中西会長：砂川用水などの固有名詞や、維持管理を行うこと自体は記載されているが、「どのようにしていくのか」という具体的な方向性が書かれていないということか。

大野委員：例えば、「東京都に要請する」という目標が設定されているが、それに加えて「東京都と連携して何をするのか」という点が明確になっていない。

事務局：砂川用水の親水化については、資料２の15頁、施策２−２−２の取組①に「周辺の緑化や親水空間としての整備を検討する。」と記載されている。

中西会長：記載量に制限があることを考慮すると、提案として、これとは別に個別の具体的な内容を記載したペーパーを、市民活動団体と協働で作成するのがよいのではないか。

事務局：実際には、年度ごとに市民団体との協議を経て事業を行うことになる。

中西会長：活動頻度やスケジュールについては、様々な要素があるが、現時点ですべてを記載するのは難しいと思う。そのため、別途整理する必要があるだろう。

事務局：将来像がイメージしにくいという意見については、庁内に持ち帰り検討したい。継続的な取組の内容については、現行の実施計画とほぼ同じ内容で記載の仕方も継承している。ご指摘は、目標年次の姿が見えないということかとも認識している。しかし、取組すべてが

発展的に積みあがっていくものではないため、表現が難しい部分もある。一旦持ち帰らせていただきたい。

中西会長：まだ素案の段階であるため、今後担当課と調整を行い、次回の審議会で結果を提示していただく。

六車委員：資料２の６頁の内容は新しい取組だが、これだけの施策を実施することが本当に可能なのか疑問に思う。取組に対する助成などは行われているが、市の財源を活用できるのかを明記することで、目標達成の可能性が高まるのではないかと思う。

事 務 局 ：助成金は毎年度の予算措置に基づくものであるため、先の６年間を含めて具体的な表現をすることは困難であり、現在のような記載になっている。ただし、今年度も助成を行っている実績がある。今後の進行管理で実績については記載できる。

六車委員：もう一点、資料２の９頁に記載されている「地場産農畜産物の購入率」という指標について、アンケート調査の項目をもう少し詳細に調査してみてはどうか。

中西会長：ご提案いただいた内容については、検討をお願いする。時間となったため、実施計画に関する議論はここまでとする。次回までにどうしても述べておきたい意見があれば、事務局へメール等で連絡してほしい。

３．その他

（１）今後の予定

（事務局より参考資料３を説明）

中西会長：各委員の追加意見を取れるか。

事 務 局：追加のご意見がある場合は、１月 30 日（木）までに、事務局へ送付をお願いしたい。次回第５回の開催は令和７年２月 19 日（水）を予定している。

４．閉会

中西会長：令和６年第４回国分寺市環境審議会を閉会する。